

未来の貴重な財産となる

震災の記録を後世に

時とともに変わる町の風景をふと眺めながら、元の姿が思い浮かばず、改めて震災の傷跡の大きさに気付かされることがあるのではないだろうか。

少し時を戻してみると、震災直後の身の周りのようすや大混乱となった避難所、不自由な避難生活の状況などが、断片的によみがえってきます。中にはいっそ忘れてしまいたい記憶があるかもしれません。

できれば起こってほしくない災害ですが、いつかまた繰り返されることは歴史が証明しています。

そう考えると、将来、同様の災害が起こった時に、後世の人々が再び大混乱に陥ること

のないように、今回の体験の記憶と記録をしっかりと残し伝えていくことが、私たちの役目であるとも言えます。

町図書館では、本町始まって以来の大混乱が決して繰り返されないためにも、震災当初の惨状、傷跡から復興までの足跡をしっかりと記録し、風化させることなく後世へと伝えていきたいと考えています。そこで、今残さなければ消えてしまう写真や映像、紙資料などの収集のため、皆さんに継続して提供を呼びかけています。

いただいた記録などは、今後、震災アーカイブとして整理し、新たな防災対策などのために活用していきます。

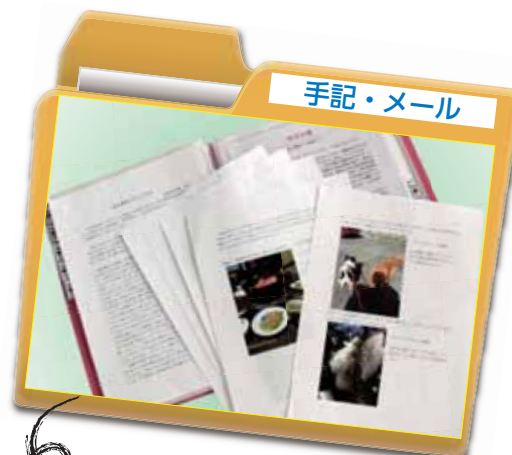
記録を形に残す



アーカイブとは

「記録や資料などをひとまとめにして保存すること」や「そのようにしてまとめられた資料群」、さらには「その保存場所や保存機関」を表します。多くの場合、公共性が高い資料(古文書・公文書・文化遺産の映像など)について言い、さまざまな媒体の資料を対象にしたものの総称。

こんなものが寄せられています
【ご提供品ファイル】



※新聞スクラップは、図書館で作成しています。